「家庭の日」について考えてみましょう②

今回は、先月号に引き続き『家庭の日』の2回目を掲載しますので、参考にしてください。

家庭における子どもの教育は、親子の関係を通じて行われることはいうまでもありません。しかし、親がその役割を適切に遂行して、子どもを育てることは容易なことではありません。そこには複雑なメカニズムが作用します。

第一に、親が子どもに意図的に働きかけ、子どもの側も親の教えを受け入れるのが「学習」というメカニズムです。

第二は、「子どもは親の背中を見て育つ」といわれるもので、親は意図的に子どもに教えようと思っていないのに子どもが親の行動や生き方を見て、自分のものにしていく「模倣」というメカニズムです。

第三は、子どもが無意識のうちに、親が意図的に与えたお手本やモデルの影響を受ける「感化」というメカニズムです。

第四は、「薫化」というメカニズムで、これは、親も子も特に意識はしていないのに家庭や地域のもつ雰囲気の影響を受けるというものです。

家庭教育は、こうした「学習」「模倣」「感化」「薫化」といったメカニズムが複雑に絡み合って行われます。

ですから、子どもの教育だからといって親子関係だけに目を向けていたのでは十分ではありません。夫婦関係や兄弟関係、また、友達や地域との関係も重要な意味をもってきます。

「家庭の日」が単なる「子どもの日」や「母の日」「父の日」ではなく、それらを含めた全体としての家庭そのものの日であることの意義は、こうした子どもの社会化のメカニズムから考えても重要な意味をもっているといえます。

また「家庭の日」の意義は子どもの健全育成ということだけではなく、大人の精神的安定にとっても重要な意味をもっています。

複雑・多様化した現代社会の中で生活に疲れた大人たちが、失われつつある人間性の回復にストレスから解放されるのは暖かい相互の信頼の絆によって結ばれた家族の人間関係が大切です。

大人が精神的に安定できるような家庭は、子どもの成長・人格形成にとってもプラスになるのです。

さらに、家庭は社会を形成する基礎的な単位です。したがって、どの家庭も安定しているところでは、社会全体の秩序も安定し、人々が安心した、楽しい生活をおくることができます。この意味からも「家庭教育」の大切さと共に「家庭の日」の意義には大なるものがあります。

この様に家庭の重要性は、いつの時代になっても不変的なものですが、今、あらためて「家庭の日」をとり上げるのは、現在、日本の家族が変化し、その変化をふまえ、さらには社会の変化、青少年の現状を考え、「家庭の日」の重要性を再認識していただき新たな観点から「家庭の日」を考えてみる必要があると思ったからです。

家庭教育参考資料
家庭教育ノート　山梨県版参照

一、しつけ編

①ずいぶん厳しく叱られたけど、今ではそれに感謝している。

②感情にまかせて叱ることと、しつけとは違う。

③いうことをきかないのは子どもの自立が芽生えたこと。しっかり育てよう。

④万引きはゲームじゃない、犯罪だ。しっかり教えよう。

⑤子どもはSOSがうまく言えない。頭痛、腹痛、拒食などでサインを発信している。様子をよく見、よく話を聞こう。

二、ゆとり編

①子どもは遊びが仕事です。遊びが子どもを大きく育てます。

②人生で大切なことは、自然の中で身につける。

③親や大人の生き方が子どもへの最高の教育である。

④年上、年下の友だちと遊ぶことは、想像以上に大切である。

⑤家庭や地域で行う行事に参加することで、家族のふれ合いを深め、また、地域を知り、友達関係を学ぶ。

三、思いやり編

①愛情は家庭で育てなかったら、よそで育てるのはむずかしい。

②子どもは、親の姿を見て学ぶ。

③人を差別する子は、人から差別される。

④「いじめ」をすることは、人として恥ずかしいことだと知らしめる。

⑤いい本に出会うことは、いい人に出会うことである。

四、その他編

①家事を手伝わせることは、自立と責任を育むもとである。

②子どもを不幸にしたいなら、何でも言うことをきいてやればよい。

③子どもが家で身につけたことは、生涯生き続ける。